

赤い羽根の災害時支援

赤い羽根共同募金は、災害が発生した際に被災地に設置される災害ボランティアセンター等への災害等準備金による支援を行うほか、被災された方々へのお見舞金をお送りするため災害義援金募集を行っています。

災害ボランティアセンターの設置、運営は赤い羽根共同募金が支えています

災害等準備金



赤い羽根共同募金は、翌年度に実施する事業への助成要望を各都道府県内で募り、積み上げを目標として募金運動を行う「計画募金」のしくみをとっています。

急に発生する災害には、このしくみでは対応に限りが出てしまうため、毎年共同募金の3%を「災害等準備金」として積み立て、急な災害における助成に備えるようにしています。

災害後、復旧、復興をめざす段階に「災害ボランティアセンター」が設置され、ボランティア活動を支援する光景も見慣れたものとなりましたが、災害等準備金は、災害ボランティアセンターの設置、運営を支える重要な資金となっています。

赤い羽根共同募金は、原則としてご寄付のあった都道府県内で助成されますが、被災規模の大きな災害が発生した場合は、都道府県域を越えて全国の共同募金会が積み立てた災害等準備金を拠出しあい、大規模の助成を実施します。

令和4年7月から8月にかけて全国各地で大雨による災害が発生したほか、台風15号により静岡県内で大きな被害が出ました。令和4年8月の大雨災害では、8月3日から続いた記録的な大雨により全国各地、特に北陸地方から東北地方にかけて広く河川の氾濫や土砂災害等が発生し、甚大な被害が発生しました。

これらの7月豪雨、8月豪雨、台風15号の災害で被災した8県において、31カ所の災害ボランティアセンターに対して、災害等準備金による支援を実施しています。

災害等準備金の助成状況【令和4（2022）年度】

令和4年7月豪雨災害	宮城県	6,000,000円
令和4年8月豪雨災害	青森県	3,119,536円
	秋田県	2,834,661円
	山形県	4,858,822円
	新潟県	5,953,531円
	石川県	1,421,614円
	福井県	4,192,000円
令和4年台風15号	静岡県	15,387,704円



令和4年8月豪雨災害における
村上市災害ボランティアセンターの活動

©NSVN

災害義援金



被災された方を支えます

共同募金会では、災害発生時に災害救助法の適用状況に応じて、被災者支援のための義援金を受け付けています。災害義援金は、災害により被災された方へのお見舞金としての性格を持つとともに、被災された方の当面の生活を支える資金として位置づけられています。

令和4年度は、令和4年8月豪雨災害の発災にあたり、被災した各地の共同募金会が義援金を募集し、被災県の行政の設置する義援金配分委員会を通し、被災者の皆さまにお見舞金としてお渡ししています。

企業・NPOとの協働による災害時被災者支援



東日本大震災の被災地の子どもたちを支援

「赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト」

「赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト」は、夢と志を持つ次世代の育成をめざし、平成25（2013）年から東日本大震災で被災した東北の子どもたちを支援する活動に助成しています。

令和4（2022）年度は、岩手県、宮城県、福島県の各県共同募金会を通じて7団体に助成し、子どもたちへの学習支援や居場所づくり、心のケアなどの活動を資金面でサポートしました。このプロジェクトは、携帯電話利用者の10円の寄付に、ソフトバンクから10円を加えて毎月20円を寄付するオプションプラン「チャリティホワイト」の寄付により行われています。

※プロジェクト概要や助成した団体、活動内容は、下記URLにてご紹介しています。

https://www.akaihane.or.jp/project_charity_white/

チャリティホワイトプロジェクトによる支援事例

NPO法人サクラハウスのびる

2011年から宮城県東松島市の野蒜地域で小学生を対象に放課後クラブやイベントを開催しています。

今回助成を受け、2泊3日のキャンプを開催しました。震災当時の子どもたちがスタッフとして参加してくれ、その立派な姿を見ることができて喜ばしい一方、今でも震災の影響で苦しんでいることを打ち明けてくれました。しかしながら子どもたちと交流することで、自身が他者にとって必要とされることに喜びを感じるとも言ってくれました。

野蒜は震災後、高台に建設されました。住民同士の交流や、地域のコミュニティの再生にも時間がかかっています。しかしこのキャンプを通して学生スタッフと小学生たちが親睦を深め、住民交流の一助にもなっています。



支援P

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議



災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）は、被災者支援における災害ボランティア活動の活性化の一助になることをめざして企業、NPO、社会福祉協議会、共同募金会等により構成されたネットワーク組織で、事務局を中央共同募金会が担っています。

令和4（2022）年度は、令和4年7月豪雨災害、令和4年8月豪雨災害、令和4年台風15号災害において、被災市町村に設置された災害ボランティアセンターに対して、これまで培った経験とネットワークをいかして運営支援者を派遣しました。企業からの支援を受けて、資機材の提供や物品寄贈等、ネットワークの強みをいかして運営支援を行いました。また、パナソニック株式会社から「頻発する自然災害に備え、社員ボランティアを育成したい」との意向を受け、社員を対象とした「企業人災害ボランティア講座」を実施しました。

※災害ボランティア活動支援プロジェクトの会議の取り組みは、下記URLにてご紹介しています。

<https://shienp.net/>

東日本大震災 震災遺児支援事業の実施

震災遺児の学業をサポート

震災遺児修学資金、中学校入学祝金、高等学校卒業祝金の給付

中央共同募金会では、東日本大震災で親などの養育者をなくした震災遺児（小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等に在学中の方）を対象に、返済の必要のない「震災遺児修学資金」の給付と、中学校入学祝金、高等学校卒業祝金の給付を行っています。

令和4（2022）年度
支援内訳

修学資金給付（1人あたり282,000円／533名）、高等学校卒業祝金（1人あたり100,000円／74名）、
中学校入学祝金（1人あたり100,000円／24名）

災害対応にかかわる 中央共同募金会の取り組み

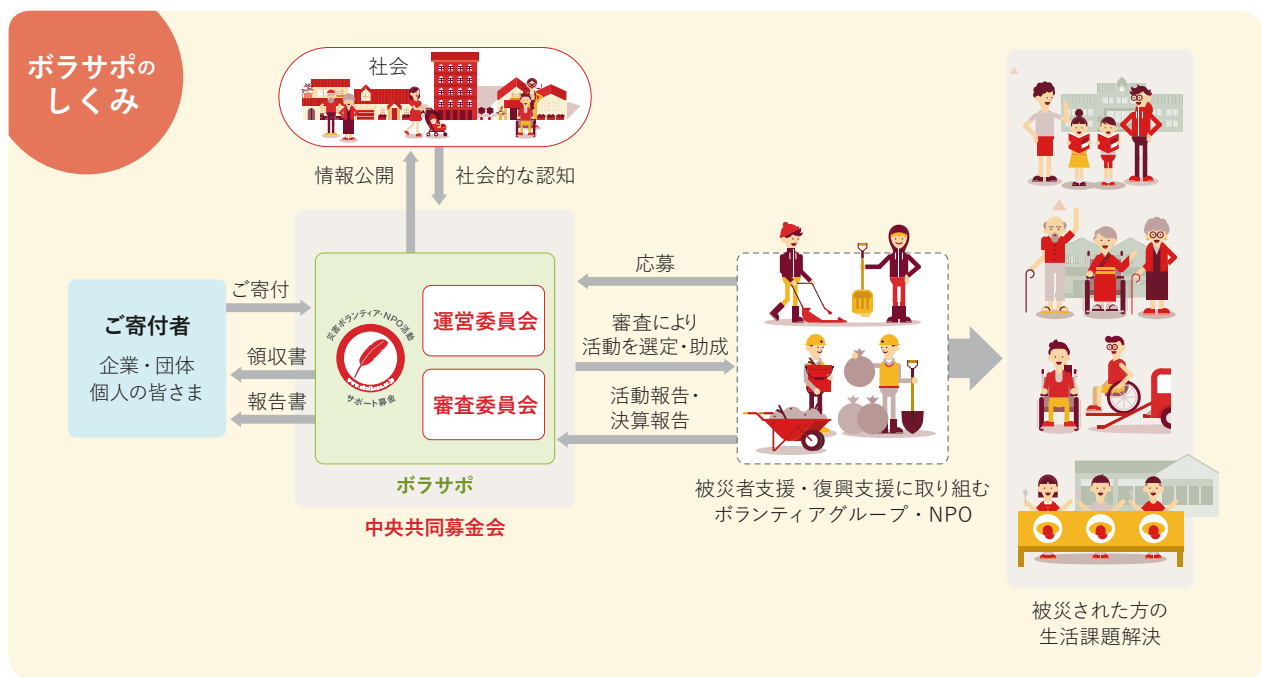
～被災地で活動するボランティアやNPOを活動支援金により支えるしくみ～



赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(ボラサポ)は、風水害や地震等の災害で被災された方々の生活を取り戻すため、ボランティアグループやNPO等が行う活動を支える資金支援のしくみとして、寄付金の募集(活動支援金)と支援活動に対する助成を行っています。

平成23(2011)年に発災した東日本大震災をきっかけに始まり、平成30(2018)年からは「ボラサポ」を常設化し、災害発生時に迅速な支援を行っています。この間多くの寄付者の皆さまからのご支援により、ボラサポでは累計のべ1.5万件の活動団体に、総額59億円の助成を実施しています。

被災地で活動するボランティアグループやNPO等を資金面から後押しすることで、寄付者の皆さまからお預かりしたご寄付とその想いを活動団体につなぎ、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、被災された方々に寄り添った支援を続けています。



「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」運営委員・審査委員(敬称略)

外部識者による運営委員会・審査委員会を設置し、ボラサポの運営や助成審査を行っています。

■運営委員

委員長	山 崎 美貴子	東京ボランティア・市民活動センター 所長
委員	諏 訪 徹	日本大学 文理学部 社会福祉学科 教授
委員	池 田 三知子	一般社団法人日本経済団体連合会 SDGs本部長
委員	明 城 徹 也	特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 事務局長
委員	吉 田 建 治	特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局長
委員	高 橋 良 太	社会福祉法人全国社会福祉協議会 地域福祉部長兼全国ボランティア・市民活動振興センター長
委員	阿 部 陽一郎	社会福祉法人中央共同募金会 常務理事

ボラサポの累計助成実績（平成23（2011）年度から令和4（2022）年度まで）

累計助成決定件数

のべ 15,888件

累計助成決定総額

59億2,569万8,749円



（2023年3月31日現在）

災害／プログラム名	募 金 名（略称）	助 成 件 数	助成決定額（円）
東日本大震災（2011年）	ボラサポ	9,876	4,179,310,000
	ボラサポ2・住民支え合い活動助成	4,490	389,123,000
平成28年熊本地震	ボラサポ・九州	266	503,490,000
	ボラサポ・九州 住民支え合い活動助成	460	18,180,000
平成30年大阪府北部地震	大阪府北部地震ボランティア・NPO活動支援金	12	13,571,873
平成30年7月豪雨	ボラサポ・豪雨災害	256	259,370,000
平成30年台風21号	ボラサポ・台風21号災害	59	52,067,876
平成30年北海道胆振東部地震	ボラサポ・北海道	32	49,946,000
令和元年山形沖地震	（募金募集実施せず）	6	1,110,000
令和元年8月大雨災害	災害ボラサポ・8月九州豪雨	38	14,810,000
令和元年台風15号	災害ボラサポ・台風15号	30	12,960,000
令和元年台風19号	災害ボラサポ・台風19号	185	235,840,000
令和2年7月豪雨	ボラサポ・令和2年7月豪雨	72	98,850,000
令和3年2月福島県沖地震	ボラサポ・福島県沖地震	9	3,310,000
令和3年7月豪雨	ボラサポ・令和3年7月豪雨	7	2,570,000
令和3年8月豪雨	ボラサポ・令和3年8月豪雨	26	8,730,000
	READYFOR×ボラサポ 令和3年8月豪雨災害	5	10,850,000
令和4年3月福島県沖地震	ボラサポ・令和4年3月福島県沖地震災害	9	4,440,000
「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク」助成（令和4年度事業実施）	（募金募集実施せず）	6	27,500,000
令和4年8月豪雨	ボラサポ・令和4年8月豪雨	24	8,910,000
令和4年台風15号	ボラサポ・令和4年台風15号	15	5,780,000
「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク」助成（令和5年度事業実施）	（募金募集実施せず）	5	24,980,000

■審査委員

（2023年7月31日現在）

委員長	菅 磨志保	関西大学 社会安全学部・大学院 社会安全研究科 准教授
委員	鈴木 昭 紀	Yahoo!基金 事務局長
委員	前 田 昌 宏	日本生活協同組合連合会 組織推進本部サステナビリティ推進部 地域・コミュニティ担当
委員	高 山 和 久	東京ボランティア・市民活動センター 副センター長
委員	山 崎 博 之	社会福祉法人長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター 主査
委員	青 木 ユカリ	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター 常務理事・事務局長
委員	青 山 織 衣	社会福祉法人大阪ボランティア協会 事務局主幹

「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク」助成の実施

今後発生が予測されている南海トラフ地震や首都直下地震のような大地震、複数の都道府県にまたがる広範囲の風水害等の大規模災害が発生した際には、被災者支援を行うボランティア活動の連携が求められます。そのため、平時から防災時の対応能力を高め、迅速なボランティア活動の体制づくりにつなげていけるよう、さまざまな立場の人たちの力をあわせ、備える必要があります。

そこで、中央共同募金会では、赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金（ボラサポ）」への寄付を財源として、災害時のボランティア活動にかかる資機材等の整備やそれを活用するためのネットワーク構築を行う事業を支えるため「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク助成」を実施しています。

令和4（2022）年度は、4県・1政令指定都市の5団体が行う事業に対して、合計2,498万円の助成を決定（令和5年度事業実施）しました。

本助成を通じて、被災地における災害ボランティア・NPO活動の環境整備と体制づくりが促進されることをめざしています。

■助成決定団体

団 体 名	団体所在地
社会福祉法人青森県社会福祉協議会	青森県
社会福祉法人群馬県社会福祉協議会	群馬県
社会福祉法人横浜市社会福祉協議会	神奈川県
社会福祉法人奈良県社会福祉協議会	奈良県
社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会	鳥取県

（順不同）

「災害時のボランティア活動資機材ネットワーク」助成事例

名古屋市災害ボランティア資機材ネットワーク事業

社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会
（愛知県名古屋市）

助成決定額：500万円

これまでは、災害ボランティア活動用の資機材は、市が保有する倉庫で一括管理していました。しかし、倉庫自体が被災したり、被災地域までの道が断絶するなどの可能性を考え、資機材を迅速に持ち出し被災地域まで運ぶために、市内5カ所の倉庫に分散管理することとし、そのための倉庫の整備や資機材の追加購入を行いました。

購入した資機材を各倉庫に納入する際は、行政、社協、災害ボランティア、倉庫及び倉庫の敷地を提供いただいている名古屋建設業協会（以下、名建協）の会員が集まり、顔の見える関係づくりの一環として、合同で行いました。

また、行政、社協、災害ボランティアが一堂に会する三者合同研修では連携訓練を実施しました。さらに、行政、社協、災害ボランティアと、名建協の会員との交流会を実施し、災害対策用の備品の確認や、活発な意見交換等を行いました。



活動の成果

- ◆倉庫内の資機材の見える化、リスト化が進んだ。
- ◆これまでは、被災地支援により資機材の出入りが多く、属人的になりつつあった各倉庫内の資機材管理についても、より多くの人が携われるようになった。

担当者の声

社会福祉法人
名古屋市社会福祉協議会

ボランティアセンター副所長 野川 祐史さん



助成金により、災害時のボランティア活動で使用する資機材の整備や、申請に協力いただいたNPOや行政と資機材分散管理に協力いただいた企業等との連携体制を構築することができました。平時から整えておくことで、災害時には被災された方への寄り添い支援に、より専念できると考えています。今後も、ボランティアおよびNPO、行政、社協の三者連携を軸に、多様な団体や地域住民に協力いただきながら取り組んでいきます。

令和4（2022）年度に発生した災害への助成

令和4（2022）年度に発生した、令和4年8月豪雨災害、令和4年台風15号災害の災害を特定した寄付の募集を行い、被災地において支援活動を展開する団体への助成を実施しました。

ボラサポで活動したボランティア数

のべ **7,433名**

ボラサポの活動により支援した対象者数

のべ **11,157名**



令和4（2022）年度ボラサポ収支のご報告

収入額	600,415,954円	支出額	60,431,725円
内訳		内訳	
●寄付金	109,096,331円	●助成金	52,549,326円
●その他	3,388,688円	●事業費	7,882,399円
●前年度からの繰越金	487,930,935円	繰越額	539,984,229円

ボラサポ・令和4年8月豪雨

令和4（2022）年8月3日からの記録的な豪雨により、山形県、新潟県、石川県、福井県、青森県に災害救助法が適用され、岩手県、秋田県、福島県等でも多くの住家被害が発生しました。民家および水路の土砂の掻き出し、浸水した家屋の泥出しや家財道具搬出、清掃等の支援活動が展開されました。

■寄付と助成状況

寄付額	24,996,188円
助成件数	24件
助成決定額	891万円

ボラサポ・令和4年8月豪雨助成事例

水害で被災した子どものための心のケアプロジェクト

シャンティ国際ボランティア会
(東京都新宿区)

助成決定額: **50万円**

被災後の子どもはストレスの状況などを言語化して昇華することは難しく、外あそびを通して解放することが求められます。そのため、地元団体とともに、あそび場の運営をサポートしました。

また、活動を継続するなかで『あそび』、『インクルージョン』についてボランティアや親が学べる機会があったらよい』という声があり、今回の活動に関わるボランティアや親を中心に研修会・講習会を実施しました。



被災した子どもたちの外あそびの様子

活動の成果

- ◆東日本大震災を機にあそび場を長く運営したスタッフから、地元団体に被災後の子どもとの関わり方のノウハウを提供できた。
- ◆ボランティアであってもストレスを抱え、特性のある子どもを理解し受け入れることは難しく、マンパワー不足が課題となっていたがあそび場を継続できる体制が整った。
- ◆平時の研修会や講習会のテーマとして、防災やあそび場、子どもの多様性などのテーマに関心が高く、今回の活動を通して子どものあそび場に対する意識の変化があった。

担当者の声

シャンティ国際ボランティア会

中井 康博さん



ウクライナ情勢や頻発する災害の影響で被災地の状況は隠れてしまっています。コロナ禍で県外からのボランティア活動の受け入れについて、自粛を余儀なくされている被災地も少なくありませんが、当会は、被災地域で活動を行う地元の人と共に寄り添いながら支援活動を続けてまいります。



ボラサポ・令和4年台風15号

令和4年9月23日から東海地方・関東地方に接近した台風15号の記録的な大雨の影響で、多くの人的被害・住家被害が生じ、静岡県23市町に災害救助法が適用されました。断水や浸水が発生し、多くの人的・住家被害が生じました。被災地では、ボランティアやNPO等により民家や水路の土砂の掻き出し、浸水した家屋の泥出しや家財道具搬出、清掃等の支援活動が展開されました。

■寄付と助成状況

寄 付 額	10,279,105円
助 成 件 数	15件
助成決定額	578万円

ボラサポ・令和4年台風15号助成事例

災害ボランティアバスの運行による支援活動

特定非営利活動法人 御前崎災害支援ネットワーク (静岡県静岡市清水区)

助成決定額: 50万円

台風15号により、御前崎市内では竜巻、床下浸水の被害があり、ボランティアを募って、5日間にわたり延べ60名が参加して、被災家屋からの家具出しや床下の泥かきなどの活動を行いました。

また、静岡県内の複数市町で被害が起き、とくに静岡市清水区は甚大な被害が発生したためボラバスを6回運行し、6日間にわたり、泥などの汚れの清掃や消毒、濡れてしまった家財の搬出などを行いました。



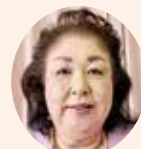
活動の成果

- ◆ 発災から3週間が経過しているにもかかわらず、濡れたままの畳や家具をそのまま放置しているお宅もあったが、活動により、すべての依頼を完了することができた。
- ◆ 団体のチームワークがより高まった。
- ◆ 家族だけで片付けようとしていた人が多かったが、長期にわたり心も体も疲弊されていて、活動により家が片付き、きれいになっていくと笑顔がこぼれて表情が明るくなるのが分かった。

担当者の声

御前崎災害支援ネットワーク

代表理事 落合 美恵子さん



「家族だけで片付けるのは無理だった」という声も多く、片付けをあきらめていた方からも、「ここまでしてくれるの?」と本当に喜んでいただけました。

活動を通じて、ボランティアに初めて参加した人や中高生も「人の役に立てた」という実感を持つことができ、助け合う大切さを知っていただくことができました。

ボラサポ助成団体の活動紹介動画

- 令和4年8月豪雨および令和4年台風15号で活動した団体の動画はYouTubeでもご覧いただけます。

NPO法人村上ohanaネット (令和4年8月豪雨)



NPO法人レスキューアシスト (令和4年台風15号)



「ボラサポ～住民支え合い活動助成」のご紹介

災害発災から一定の期間を経過した復興期にある被災地において、長期的な観点から、住民自らの支え合いで新たな地域づくりを進める活動を支援するため、中央共同募金会ではボラサポによる「住民支え合い活動助成」を実施しています。

住民支え合い活動助成は、主として被災した都道府県共同募金会により実施されています。

●東日本大震災の被災地における「被災地住民支え合いサポート募金（ボラサポ2）」

「被災地住民支え合いサポート募金（ボラサポ2）」は、東日本大震災の被災地（岩手県・宮城県・福島県）における住民同士の支え合いづくりや被災地の復興に向けてさまざまな人のつながり、地域のコミュニティづくりの活動を支援する助成を継続して行っています。

※東日本大震災の被災地における「被災地住民支え合いサポート募金（ボラサポ2）」による助成件数と金額（令和3年度）

	助成件数	助 成 額
岩手県	30件	5,070,000円
宮城県	294件	40,263,000円
福島県	89件	7,906,000円
中 央*	1件	5,500,000円
合 計	414件	58,739,000円

*中央共同募金会は、東日本大震災支援全国ネットワークの行う広域避難者の支援活動に助成

●熊本地震の被災地における「ボラサポ九州・住民支え合い活動助成」

「ボラサポ・九州」住民支え合い助成は、熊本地震の被災した地域の住民の方が中心となって、地域に密着したさまざまな人のつながりづくりや、被災地域のコミュニティ再興のための見守り活動や情報交換や交流の場づくりを資金面で支えるため、被災地における地元住民のグループ等による助け合い活動を支援するための助成です。

※熊本地震の被災地における「被災地住民支え合いサポート募金（ボラサポ九州）」による助成件数と金額（令和4年度）

	助成件数	助 成 額
熊本県	250件	24,000,000円

ご存じですか？

支援金と義援金の違い

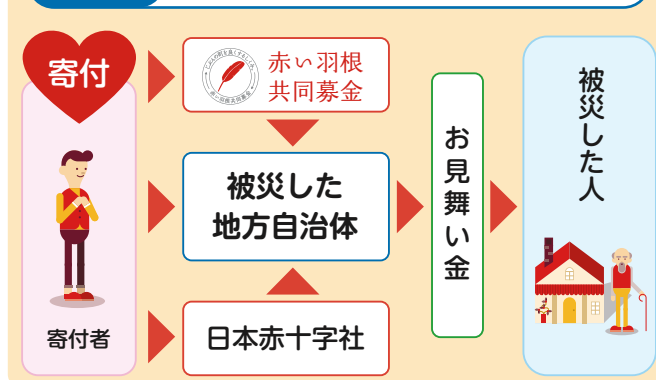
支援金は、ボランティア団体や NPO などが被災者支援活動をするための寄付のことをいい、義援金は被災した世帯にお見舞金として配るための寄付金で、一般的には地方自治体が募集するもののことをいいます。2つの寄付金には次のような特徴があります。

支援金 さまざま支援活動への寄付



- 寄付先** 支援活動を行う団体、支援団体に助成する団体
- 主な使いみち** 被災地での家屋復旧など支援活動の経費
- 税制優遇** 寄付先が認定 NPO 法人等の場合のみ優遇あり
- 特徴・課題** 信頼できる寄付先（支援団体）を選ぶ難易度高い

義援金 被災した人へのお見舞い金としての寄付



- 寄付先** 被災した地方自治体、日本赤十字社、共同募金会等
- 主な使いみち** 被災した世帯に対する見舞金
- 税制優遇** 地方自治体への寄付としての税制優遇あり
- 特徴・課題** 被災者に届くまで時間がかかる
地域による世帯当たりの見舞金額の不公平さ

災害時の企業・団体等の協力事例

「災害ボランティア・NPO活動サポート募金（ボラサポ）」は、特定の災害時以外にも、常時ご寄付を受け付けています。個人寄付のほか、企業・団体等からの法人寄付・社員募金、店頭募金やイベント募金、寄付つき商品、製品の提供等さまざまな形でご協力をいただいています。一部をご紹介します。

顧客の投票数に応じて法人寄付を実施

三井ダイレクト損害保険株式会社

「三井ダイレクト損保つよやさ基金」（旧スマイル基金）は、三井ダイレクト損害保険株式会社の自動車保険、バイク保険、ドライバー保険のご契約者が、「交通事故防止」「環境保護」「復興支援」それぞれの分野を支援する3団体のうちから、応援したい団体に投票し、同社が投票数に応じて法人寄付を行うしくみです。

2014年に会社創立15周年を記念して創設され、毎年継続してボラサポへご寄付いただいています。



毎年ホリデーシーズンにチャリティバッグを販売

株式会社バーニーズ ジャパン

株式会社バーニーズ ジャパンでは、2014年から毎年ホリデーシーズン期間中に、同社が展開するバーニーズ ニューヨークの各店においてチャリティキャンペーンを実施し、社会貢献活動を支援しています。

2022年も12月に販売されたチャリティバッグの売上のすべてを、ボラサポにご寄付いただきました。

毎年とても人気があるチャリティバッグ。お客様の賛同を得て、継続的にご支援いただいています。



社員の自主的な活動や寄付による社会貢献

Daigasグループ

「Daigasグループ“小さな灯”運動」は、社員が自主的に活動を企画し参加する企業ボランティア活動です。2022年は被災地復興支援バザー「古着販売コーナー」等の収益をボラサポへご寄付いただきました。また、「Daigasグループカフェテリアプラン社会貢献クラブ（旧名：大阪ガスともしびクラブ）」は、福利厚生制度を活用して、社会課題の解決に取り組む団体へ社員が寄付できるしくみです。

同グループからは、こうした社会貢献活動により、ボラサポへの寄付を通じて、長年にわたり被災地を支えていただいています。



※「社員WEB募金箱」とは？

中央共同募金会では、一般のネット募金とは別途に、企業ごとに個別の「社員WEB募金箱」を開設しています。社員の皆さまにWEB募金箱のURLをお知らせいただくだけで、社内募金の告知や取りまとめが可能となるため、従来の社員募金に比べてCSR担当者のご負担が減り、2019年10月スタート以来多くの企業にご活用いただいています。開設費用は無料です。

詳細は、中央共同募金会・基金事業部 kikin@c.akaihane.or.jp（社員WEB募金箱担当）へお問い合わせください。

「災害ボランティア・NPO活動サポート募金（ボラサポ）」等への ご支援ご協力企業・団体【令和4（2022）年度受付分】

（五十音順・敬称略）

【「ボラサポ・令和4年3月福島県沖地震／令和4年8月豪雨／令和4年台風15号」へのご支援】

一般財団法人 上田記念財団

花王株式会社／花王ハートポケット倶楽部

経団連1%クラブ

K&Oエナジーグループ株式会社

株式会社光和

ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ

ソフトバンク株式会社／ソフトバンクグループ株式会社／
「つながる募金」にご協力いただいた皆さま

SOMPOちきゅう倶楽部

第一三共株式会社

中外製薬株式会社

辻・本郷税理士法人

東京海上グループ社員・代理店有志の皆さま

日本航空株式会社

芙蓉総合リース株式会社

三井住友信託銀行株式会社

ヤフー株式会社「Yahoo!ネット募金」にご協力いただいた
皆さま

【「ボラサポ・九州」（熊本地震）へのご支援】

株式会社ダイヘン

三菱ケミカル・クリンスイ株式会社

ヤフー株式会社「Yahoo!ネット募金」にご協力いただいた
皆さま

株式会社LAVA International

【「ボラサポ」全般へのご寄付】

Daigasグループ“小さな灯”運動（大阪ガスネットワーク
株式会社）Daigasグループカフェテリアプラン社会貢献クラブ
（大阪ガス株式会社）

株式会社大林組／社員有志の皆さま

花王株式会社

株式会社SynaBiz

J-Coin Pay「ぽちっと募金」（株式会社みずほ銀行）

ジャパングolfツアー選手会

東京センチュリー株式会社

辻・本郷税理士法人

日本イーライリリー株式会社

日本たばこ産業株式会社

株式会社日本テレビサービス

株式会社ネットプライス

株式会社バーニーズ ジャパン

パナソニックハウジングソリューションズ株式会社

ピツニーボウズジャパン株式会社／Pitney Bowes
Foundation

ブックオフコーポレーション株式会社（キモチと。）

株式会社八木熊

マツダ株式会社

三井ダイレクト損害保険株式会社

三井不動産商業マネジメント株式会社

【「ボラサポ2」（東日本大震災）へのご支援】

社会福祉法人NHK厚生文化事業団を通じてご寄付いただ
いた皆さま

NTTドコモグループ 災害復興等応援社員募金

ソフトバンク株式会社／ソフトバンクグループ株式会社

株式会社文化放送エクステンド

ヤフー株式会社「Yahoo!ネット募金」にご協力いただいた
皆さま

【その他災害支援へのご寄付】

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

※災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）

このほか多くの企業・団体の皆さまにご支援・ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

※ご寄付の際に寄付申込書をご提出いただくなど、本会よりご連絡が可能であった企業・団体のうち、ご承諾いただいた場合のみ名称を掲載
しております。また、掲載にあたっては基準を設けさせていただきました。